

# 婦人科悪性腫瘍に対する分子標的治療の効果を規定する遺伝子変異の探索と 治療効果を予測する新規バイオマーカーの確立

## 患者さん情報の研究利用についてのお知らせ

### 本研究の目的

本研究は、慶應義塾大学医学部産婦人科で行っている研究です。目的は、婦人科悪性腫瘍（卵巣がん・子宮体がん・子宮頸がんなどの病気）に対する分子標的治療薬の治療効果に関連した遺伝子の発現情報を調べることです。分子標的治療薬とは、従来の抗がん剤と異なり、がんの増殖などを選択的にブロックすることで治療効果を発揮する、新しいタイプの抗がん治療薬です。近年、婦人科がん領域にも分子標的治療薬が臨床応用されてきておりますが、個々の患者さんについてその効果を予測できる明らかな指標は分かっておりません。そこで治療の効きさすさや副作用の起こりやすさを規定している遺伝子に着目し、それについての新しい知見を得ることで、より詳細な診断法、より良い治療法、より効果的な予防法を開発することができると考えています。その上で、将来的に患者さん個々の病状に応じた治療法（テーラーメイド医療）の実地臨床への応用を目指しています。

### 本研究の概要

本研究の目的に該当する患者さんを対象に、慶應義塾大学病院産婦人科において手術や生検など診療の中で既に採取させていただいた組織（以下**試料**）を用い、分子標的治療に関連した遺伝子情報（治療薬の効きさすさや副作用の起こりやすさを規定している遺伝子などの情報）を探索いたします。なお、慶應義塾大学医学部産婦人科にて実施している「婦人科悪性腫瘍の発生および悪性形質の発現に関連する分子についての研究」にすでにご同意をいただき、過去に採取・保管させていただいている試料がある場合には、これを使用することがあります。また、診療記録（カルテ）の中から、各種の診療情報（年齢・組織型・進行期・予後など）を記録した上で、遺伝子情報とともに分析いたします。研究対象として最大 200 名程度の患者さんの試料および診療録の情報を利用させていただきます。

### 研究期間

2012 年 12 月 1 日～2015 年 3 月 31 日（予定）

### プライバシーの保護に関して

研究において利用させていただく試料は既に診療の中や別途の研究において採取されたものの残りをを用いるため、患者さんへの身体的負担はありません。また診療情報は、すべ

て通常の診療の中から収集されたものを使用します。すべてのデータは、患者さん個人を直接特定できない匿名化情報として収集された上、厳格に保護されます。また本研究は慶應義塾大学医学部倫理委員会における審査をうけ承認を得られたものです。

もしこの研究についてのご質問等がおありの場合は、研究責任者または実務担当者までご質問ください。また御自身の情報を本研究に利用することについて、ご了承いただけない場合には、以下の研究責任者または実務担当者に御連絡ください。なおその場合においても、皆様の病院サービスご利用について不利益が生じることは、全くございませんのでご安心ください。

2013年4月1日

研究責任者

慶應義塾大学医学部産婦人科  
教授 青木 大輔

実務担当者

慶應義塾大学医学部産婦人科  
助教 野村 弘行  
連絡先： 03-5363-3819 (FAX 03-3353-0249)